

知床半島縦走

【日 程】 7/2(土)～7/6(水)

【メンバー】 CL 柘植、松原、吉川(記録)

【当初計画】

- 7/2 羽田第二ターミナル⇒(ANA)中標津空港⇒(タクシー/バス)羅臼 (泊)
- 7/3 羅臼⇒(クルマ)相泊⇒(海岸沿歩き)観音岩⇒(ウナキベツ川左岸コース)知床沼 (泊)
- 7/4 知床岳往復
- 7/5 知床沼⇒ポロモイ岳⇒P947⇒P814(幕営)
- 7/6 幕場⇒P763⇒P641⇒ウイースプリ⇒P602⇒P516⇒P412⇒P308⇒P176⇒知床岬(幕営)
- 7/7 知床岬⇒(東海岸沿い)赤岩の番屋⇒(チャーター船)相泊⇒(クルマ)羅臼 (泊)

【行動実績】

7/2(土) 曇のち雨 羽田空港 12:15－13:55 中標津空港－タクシー&バス－17:00 羅臼 (ホテル泊)
羽田空港を昼過ぎに出発し、飛行機、タクシー、バス等を乗継いで羅臼のホテル栄屋に到着。夕方、明朝からの予定に合わせて、車や船の手配の確認を現地の方と話し合う。夜にかけて、雨脚も強まり明日の出発は危ぶまれる。

7/3(日) 曇り 雨で停滞の為ホテルから近くのライダーハウス民宿に移動 (泊)
雨は上がったが、予備日もあることだし、出発を 1 日延期することになった。これは正解だった。後に分かったことだが、昨晚の雨で道路は通行止めになっていたとの事だ。ホテルから歩いて、10 分ほどの所にある、ライダーハウスに今晚の宿を決め、安宿だが、部屋は小奇麗で朝から、自由に使用してくれ助かった。道の駅や温泉、羅臼ビジターセンター、羅臼港等をうろついて 1 日過ごした。羅臼川は濁っており、草の様子から水量が多いようだった。昨晚はかなりの雨量だったのだろう。

7/4(月) 曇りときどき霧雨

民宿 5:00－(車)相泊 5:45－ウナキベツ川出合 7:35－大崩壊地帯 10:50－知床沼 14:50 (幕営)
早朝、予約していた車にて相泊へ向かう。いよいよ海岸線歩きが始まった。この知床岬までの縦走は、私の器量では無理だと諦めていたが、再度のお誘いに、この 3 か月、体力作り、藪漕ぎ等の訓練を積んできたので、大丈夫！と心に刻み、濡れて滑りそうな石を飛び移り進んだ。



相泊は道路の終点でここから歩く



番屋群を過ぎるとひたすら海岸歩き

観音岩のルンゼを登っている時、今歩いたばかりのようなクマの足跡を見てしまい、笛を吹きながら通過した。ウナキベツ川左岸から踏み跡に入る。



観音岩の巻きルート of ルンゼ



鞍部を越えて海岸へ降りる

すぐに急斜面を登り、その後、緩やかな道になり、踏み跡は獣道と交りあい分かりにくくなるが、ダケカンバの幹に付けられた、小さめの赤ペンキを見逃さないように進む。ぬかるんだ平坦地に右側から沢が入り込んでくる辺りから、ウナキベツ川から離れ暫くすると青沼を右手に見て尾根に取り付く。



ウナキベツ川左岸の不明瞭な平坦地を進む



右手に青沼を見ると間もなく尾根に取付く

踏み跡を辿り、大崩壊地帯の縁に出る。昨日の雨で地盤は緩み、木の根っこに落とし穴があり、非常に怖い！足元を確実に選び登る。ここにも、人の靴跡とクマの足跡を見る。崩壊地帯の縁を離れると、トラロープの下がる急斜面を登り（この斜面の大石が二日後には、ずり落ちていた）、ポロモイ台地は笹やハイマツを掻き分け、大岩越えやハイマツの幹渡りと二足歩行とは程遠くバランスを崩し落とされたら痛い目に合う。沼に着いた！！・・・が、昨日の雨で、沼の縁の踏み跡は水没！うろたえた末、道を発見！と思い少し進んで行った。GPSでは戻る方向に進んでいるとの事、磁石を見ると逆方向だった。今歩いてきた所を戻っていたのに気付かなかった。また向きを変え進み元の場所に戻る。その先、男性二人は、膝まで水に浸かって進んでしまった。私もすでに足は濡れていたが、明日の事を考えたらこれ以上濡れたくないので、ハイマツの藪を進んで仲間と合流、間もなくテントを張れる場所に飛び出た。場営指定箇所にテント設営後、とりあえず今晚と明日の飲み水の煮沸をしながら、夕食を取る。今日は、一日中濡れた草むらや、湿地帯、笹を掻き分ける足元は時々水たまりなどで、靴はびしょ濡れになった。夕方は、明日の好天を約束してくれるような青空になった。

7/5(火) 晴れ 知床沼 4:35-1160m 付近 8:25-知床岳 10:30-1160m 付近 12:10-知床沼 15:00(幕営)



すっかり水の引いた知床沼と知床岳方面



まずは眼前の 1132 ピークを目指す



薄い切り開きを見逃さずにたどる



こんなオアシスもあったりする

眩しいほどの陽の光を浴びて沼の縁の池塘をかすかな踏み跡を辿り小沼を越え藪に突入して行く。踏み跡は、時には沢となり、ぬかるんだり深みにはまったりする。ハイマツの藪が濃くなっても、ハイマツの切り口を見れば安心して進める。しかし、ダケカンバやハイマツのくぐり抜け、ルート探しは容易なものではない。1132m ピークの直下は、ルートを外したらしく猛烈なハイマツをくぐり抜けようやくオホーツクの雲海を見ることができる稜線に出た。帰りは、ここのルートの正解筋を歩いたようだ。暫く稜線をハイマツ漕ぎで進み、コルから稜線を離れ、1243m のピークに向かう。



ハイマツと灌木のミックス藪をこぐ



遥か遠くに知床硫黄山が見えてくる

ここで、踏み跡を見失いまたもや猛烈ハイマツ漕ぎと思いきや、ほどなく踏み跡を見つけるが、大変な藪漕ぎに変わらない。そして、湿原に飛び出た時、最高の爽快感を味わえる。エネルギーを補給してまた藪に入る。二回湿原帯を通過し、1243mのピークに登り詰める。ここでやっと知床岳の姿を望む。右下方にホトヒラ川源頭部の崩れた稜線上のハイマツを登ったりくぐったり、亀裂の入った、恐怖を感じるような所を通過し、ようやく知床岳山頂に立った。



知床岳の山頂（バックは硫黄山）



オホーツク海側は雲海のなか

一等三角点名は知床岬と言うらしい。過って、羅臼岳から硫黄岳を縦走した時、この知床岳を眺めたことだろう。硫黄岳を望み、振り向けば、そう遠くないポロモイ岳から先の知床半島がオホーツクの海に落ちている。十分なエネルギー補給をし、写真撮影後、元来た道に戻る。

下りは、登りで迷ったり困難だったルート为数か所回避しながら下山できたような気がする。そして余裕もでき、藪から出た時は、ウナキベツ川の源頭部や点々とある湿原帯の景色、そして、知床沼からポロモイ台地のハイマツの絨毯を（中に入ったら地獄でも）美しい景色と思えた。



帰路途中の湿原地帯



知床沼とポロモイ岳

無事、沼に帰り着きお疲れ様でした。まだ日が高かったので、急いで濡れた靴や衣類を干し、明日の飲み水の煮沸をしつつ、食べたり飲んだり、膨れ上がる充実感に大満足！至福の時を過ごす。本当に面白い一日だった。今日の藪漕ぎルート探しや、行き詰った時は、松ちゃんの支援に助けられ、リーダーの的確なGPSの指示の下、明日からの縦走も、行けそうな思いを抱き就寝。

7/6(水) 晴れ 知床沼 4:00－890m 付近敗退 6:15－知床沼 8:00－大崩地帯 10:20－ウナキベツ川河口
13:10－相泊 15:00－車－ライダーハウス（民宿泊）

沼の北側の踏み跡から、一泊二日の水との予備水を担いで藪に侵入する。間もなく右に鮮明な切り開きがあり、左に藪が成長した、かつての踏み跡らしき所で、方向は左のようだが、迷った末、右の切り開けを選択し進むが、GPS と松ちゃんの探索の結果、ルートを西向きから北東方向に修正、上に横に枝を広げたハイマツの枝を歩いたりくぐったり、ダケカンバの巨木をくぐったり、目先の行けそうなところを縫って進んだ。少し空間のあるところで、紐が木にぶら下がっているのを発見！ここで小休止し又、前進、松ちゃん先頭で笹を漕ぎ始めた時、クマの気配を感じ笛を吹きながら少し退却した。この時松ちゃんはクマスプレーに手をかけたらしい！そんな時、リーダーの撤退宣言がでた。なぜ？・・・

タイムは予測より少し遅れているが、予備日と十分ではないが、予備の水も担いているし、他に、撤退する要素が思い当らなかったが、話し合う余地もない雰囲気だったので、とても悔しい思いでリーダーに従って沼まで退却した。



一旦熊から退却した沼近くの露岩で



沼まではわずかだが行く手にはハイマツの海

今朝出発した知床沼に引き返し、しばし休憩の後にポロモイ台地をめがけハイマツの海を下る。



雪渓下をトラバースしてポロモイ台地に入る



切り開きを外さないように注意して進む

快晴で紺碧の海に国後の山々が並んで浮んでいる。爺々岳という日本名を持つ山なのに日本の領土でない？とのことです。ロシア領であることは納得しがたい。台地から急下降中、大岩が、トラロープを巻きこんで落ちかかっていた。雨で地盤が緩みずり落ちたのか？地滑りでできた大崩の縁を下り、二日前に登ったルートを辿り、観音岩から丸い石を飛び飛び進み、昆布採りの準備で番屋で作業中の人とお話をしたりしながら、振出しに戻った。近くの温泉に入り、ライダーハウスの隣の食堂で夕食を済ませ、眠れそうにないので、コインランドリーを探し洗濯をする。待つ間羅臼川の堤防を散策し、24 時頃就寝。



観音岩は岩頭に観音像が見える



知床沼のテントサイト脇にあった鹿の骨？

この計画に当たり情報収集は大変な作業だったと思います。リーダーに感謝します。撤退の理由も解らず、悶々としていましたが、日増しに思う事は、知床岳へ行けたことだけでも凄い事ですね！
柘植さん、松原さんお世話様でした。

【松原さんの感想】

今回は私にとって初めての北海道訪問でした。「北海道は雄大だ」と聞いていましたが、その通りに感じました。本州では見る事ができないように思える風景には何度も見とれました。さらに本格的なハイマツの藪も初めてでした。藪歩きでは先輩方を大変頼もしく感じました。私ではあつという間に迷ってしまったでしょう。今までわずかな経験しかありませんでしたが、地図読み・ルートの発見・藪の突破、意外と面白いかもかもしれません。今回一番不安であったヒグマについては、最初から最後まで怖かったです。クマ撃退スプレーは用意しましたが、知床で熊の気配を感じた時には非常に心強く、持っていて良かったと強く思います。知床の後のハイキングにおいても、携行していなければ心に余裕を持てなかったと思います。飛行場で没収されてしまいましたが、今後北海道で山に入ることがあればまた用意したいと思います。

【柘植の感想】

知床半島先端部の縦走は昔からの夢だったが、グズグズしているうちに還暦を越えてしまったので、今年が最初で最後のつもりで計画した。記録や情報は十分すぎるくらい調べたが、気になったのは岬への縦走記録がいずれもかなり古いこと、また「2005年の世界遺産登録以降、海岸沿いの残置ロープや山中のテープ類が除去されつつあり、それにとまって入山者も減少傾向にある」との記述だった。実際に行ってみると予想以上にルートは不明瞭で、楽勝と思っていた知床沼へのアプローチや知床岳のピストンも一部迷ったり、ルート探しに時間を費やした。知床沼から岬へは最初に目指す 884mピークまでは過去の記録では切開きがあり、1時間ちょっとで着くはずであったが、切開きらしきものは入口のみですぐにルートを見失い、884mピークへの中間点までで2時間もかかってしまった。少し進んでは目の前の障害物を越えるのに停止するので、GPSの方向が安定せず、却ってみんなを戸惑わせてしまったことは反省点である。クマ？らしきものの出現であわてて撤退したが、改めて前進する時間は完全になくなってしまったし、クマも怖い。かくして1回だけと決めたチャレンジは知床岳のみの登頂で終わってしまったが、知床半島先端部の厳しさの一端に触れたのはよい思い出だし、グズグズして行かないで後悔するより行ってよかったと思う。知床岳を目指す3日間の山行だけでも十二分にシレットコを味わえた。同行していただいた吉川さん、松原さんには心から感謝します。